

報告事項

オレンジネットワークとっとりワークショップ2019の開催について

オレンジネットワークとっとりワークショップ2019の開催について、別紙のとおり報告します。

令和元年8月8日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

オレンジネットワークととりワークショップ2019の開催について

令和元年8月8日

図書館

鳥取県立図書館では、平成24年から音読教室を実施し、県内の図書館や高齢者が集う施設にも広がり、公民館、高齢者施設、病院などでは、認知症予防プログラムとして実施している施設も増えてきている。

さらに認知症についての正しい理解を深め、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを推進するため、住民の方と、認知症の人と家族の会、図書館、行政機関、高齢者施設、病院など、地域を支える施設の職員がどう連携していったらよいかを一緒に考えるワークショップを県内3カ所で開催した。

1 東部会場の開催結果

【日時】令和元年7月11日（木） 午後1時から午後4時30分まで

【会場】県立図書館 2階 大研修室

【参加人数】64名

【内容】

(1) 講義：「未来につながるワクワク地域作り」

講師：金谷佳寿子氏（認知症地域支援推進員）

認知症の基礎知識、自立した生活を続けるための工夫、認知症の方の気持ちや接するときの心構えなどを、わかりやすく説明していただいた。「先回りをして自分でできることまで奪うのではなく、できないところだけサポートする」「こちらで勝手に推測するのではなく、ご本人に希望を聞く」「認知症の方が図書館を使い続けるにはどうしたらよいか、考えていくことが必要」といったお話が印象的だった。

(2) 取組報告：「図書館における高齢者サービス」

報告者：岸下真依子氏（鳥取市立中央図書館）

鳥取市立中央図書館で実施している音読教室や、「シニア向けタブレット講座」といった新しい取組みについて報告していただいた。「この（音読）教室で専門分野の方に選んでいただいた本との出会いに楽しみと喜びを感じ毎月楽しみにしています」等の利用者の感想も紹介された。

(3) グループディスカッション

「認知症になっても安心して通える図書館って？」をテーマに、図書館を使い続けるための工夫について話し合った。図書館職員や高齢者福祉施設職員はもちろん、一般の参加者の方も積極的に発言をされ、活発なワークショップとなった。最後に、図書館職員が一人ずつ、実現したいと思ったアイデアを発表した。



講義



取組報告



グループディスカッション

2 中部会場の開催結果

【日時】令和元年7月12日（金） 午後1時から午後4時30分まで

【会場】倉吉交流プラザ 第1研修室

【参加人数】35名

【内容】

(1) 講義：「大切な人を理解できるようになりたい 笑顔があふれるまちへ」

講師：大久保美智子氏（倉吉市長寿社会課 認知症地域支援推進員）

クイズや音読などを交えた、認知症の基礎知識や図書館の活用方法の紹介、具体的な事例に対する接し方のアドバイスといった内容で、参加者から「わかりやすかった」という感想が寄せられた。最後に認知症当事者の丹野智文氏のメッセージ動画を流し、ご本人の声を聞く大切さを訴えられた。

(2) 取組報告：「音読教室の取組みについて」

報告者：妻由静代氏（北栄町図書館）

平成22年度から「百歳文庫」設置等の取組みをしておられ、平成27年度からは音読教室も実施されている。昨年度は、鳥取大学医学部の浦上克哉教授を招いて、認知症予防講演会を開催され、その後、音読の出前講座の依頼が増加する等の成果を挙げられた。

(3) グループディスカッション

「もしも自分が認知症になったら、どんな生活をしたいのか」をテーマに話し合った。発表後は、講師が用意した実際のエンディングノートを見ながら、さらに認知症について解説された。質疑応答では、挙手制ではなく、自然に参加者が発言するなど、和やかで一体感のあるワークショップとなった。



講義



取組報告



グループディスカッション

3 西部会場の開催結果

【日時】令和元年7月17日（水） 午後1時から午後4時30分まで

【会場】米子市立図書館 多目的研修室

【参加人数】28名

【内容】

(1) 講義：「認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして～今、私にできることは何？～」

講師：吉野靖子氏（公益社団法人認知症の人と家族の会鳥取県支部相談員、米子市認知症地域支援推進員）

認知症の方が自分の子どもに伝えたい気持ちを表した詩「手紙～親愛なる子供たちへ～」の朗読から講義を始められた。認知症について、基礎知識からご本人の気持ち、接し方まで、様々なテーマの中から、特に理解しておいてほしい事柄を取り上げて説明していただいた。コミュニケーションをする際の「準言語」（声のトーン、強弱、長短等）が大切だというお話が印象的だった。

(2) 取組報告：「あたまイキイキ音読教室を始めてみて」

報告者：土井綾子氏（日吉津村図書館）

日吉津村図書館では、平成30年度から音読教室を開始した。まずは福祉保健課、社会福祉センター・デイサービス職員、図書館職員を対象とした職員研修を実施し、利用者の方の希望の聞き取りから開催曜日を決定するなど、開始までの試行錯誤について、具体的に発表していただいた。「健康ポイント事業」への組込みといった新たな試みについての報告もあった。

(3) グループディスカッション

「『認知症になっても安心して暮らせるまち』って？」を第1のテーマとして話し合った。第1のテーマについての話し合いが深まったところで、「自分が認知症になったら」という視点を加えて、さらにディスカッションを行った。



講義



取組報告



グループディスカッション